

HSK

なんれんとかち

No.46

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
HSK通巻第415号

2006年10月10日発行
毎月10日発行 (一部100円)
(会費・協力会費に含まれています)

編集 (財) 北海道難病連十勝支部
発行 北海道身体障害者団体
定期刊行物協会 (HSK)

- ☆ 第33回全道集会 十勝大会 報告
- ☆ 2006年度活動計画
- ☆ 2006年度部会役員
- ☆ デジタル工房お知らせ



(財) 北海道難病連十勝支部

第33回難病患者・障害者と家族の

全道集会（十勝大会）を振り返って

支部長 早川 正弘

8月5日（土）6日（日）開催された全道集会も、無事終了する事が出来ました。この成功の影には、長い期間準備していただいた役員の皆様、又各部会の実行委員、ボランティアの皆様の大変な努力の結果ではと私は思っています。大変皆様お疲れ様でした。

広告・寄付等の状況も目標350万に対して、400万を上回る成果を上げる事が出来ました。この結果も皆様の努力と熱意が各企業、事務所の担当の方の気持ちを動かし、感心を向けていただいたのではと思います。進行内容について見ましても、歓迎レセプションの内容、料理等到大変良い意見が出ていたと聞いております。

3人展及び物品販売の方も大勢の人に見ていただき、たくさんの人に購入していただいたとの事です。こちらの方も準備も大変だったと思います。しかし結果の方が良かったので大成功ではなかったでしょうか！

最後に私自身準備期間中に体調を悪くし、6月1ヶ月間入院してしまい役員、実行委員の皆様には大変迷惑をかけ、すべての日程をこなせなかった事をこの場を借りましてお詫びいたします。

今は、成功に終わった事にほっとしていると同時に実行委員の皆様到大変感謝しております。



第33回 難病患者・障害者と家族の全道集会(十勝大会)

2006年8月5日(土)・6日(日)

成田愛子

〈スローガン〉

『誰もが安心して暮らせる医療と福祉社会を 十勝から』

全道各地の患者家族の皆さん、十勝へようこそいらっしゃいました。全道集会にかけつけていただきました来賓の皆様、ボランティアの皆様に対して、心からお礼申し上げます。

十勝支部にとってこの集会は17年ぶりです。当時の事を知っているのは加藤富江・成田愛子二人だけ・・・！！

(財)北海道難病連“松田 哲征”が窓口となって開催しました。現地実行委員会も第1回：3月21日、第2回：4月23日、第3回：6月17日、第4回：7月22日に開催、意見を交し合いながら取り組みました。

8月5日

○歓迎レセプション・アトラクション

帯広カムイトウウポポ保存会(昭和32年設立当初からのメンバー)により、アイヌ文化古式舞踊が披露されました。



8月6日

○アトラクション

十勝シニアリードアンサンブル

平均年齢72才・・・年齢を感じさせない元気な演奏でした。

演奏後、小鳩会の菊地康汰さん・丹羽桃子さんより、花束が贈呈されました。

お礼にミニハーモニカを記念に頂きました。ありがとうございました。

○患者の訴え

クローン病友の会の患者会員 松平貴弘さんの元気のある、とても前向きな発表でした。

○家族の訴え

元全国膠原病友の会北海道支部 今は亡き荒尾みや子さんの姪・荒尾むつみさんによる感情深い朗読でした

○記念講演

「障害者自立支援法のポイントと今後の課題」

講師：伊原 和人（厚生労働省社会援護局障害保健福祉部企画官）

○シンポジウム

「どう考える？障害者の自立支援」

シンポジスト

- ・清水 誠一（北海道道議会議員）
- ・竹田 保（筋ジストロフィー）
- ・萩原 英司（クローン病）

助言者：伊原 和人

コーディネーター：伊藤たてお（財団法人北海道難病連）

時間が少ないようでした。



○北海道難病連・部会・支部の紹介

ボランティアさんが各部会・各支部の“のぼり”を持って壇上へ（時間の関係で並んだだけでした）

○集会アピール採択・・・十勝支部：成田 愛子

何日もかかって練習しました。でも棒読みになってしまったような気がして・・・もう声がふるえ十勝支部役員の方々に迷惑をかけました。

以上で全日程の終了です。

※今回の第33回全道集会が十勝の医療と福祉の向上に役立ち、集会に参加された患者・家族の方々が今後も仲間と情報を交換し交流を深めてほしいと願っております。

○Tシャツ：実行委員・赤、ボランティア・黄 好評なようでした。

○三人展（患者会です）

玉川 正雄さん、大道 睦子さん、島 道子さん
参加者の皆さん素晴らしいの一言でした。



※ 帯広市を始め、関係機関、ボランティアの皆さん、広告・寄付のご協力を頂きました皆さんに感謝申し上げます。

2006全道集会 十勝大会の暑い夏

リウマチ部会 田中弘子

8月5日・6日全道集会に向けて実行委員会は、12月から4回開かれ、道主導でテーマ・会場・オプションツアー・アトラクション・作品展・ボランティアなど決まっていた。何といても、お金がいるということで募金活動のことが、よく話題になった。

その間、支部の拡大委員会・役員会が何回も開かれた。

5日歓迎の横断幕で帯広駅に出迎えに行った。通る人に「何かあるのですか」と聞かれ、「全道難病連患者と障害者と家族の会が開かれるんです」と言ったら、「がんばってください」と励まされた。

リウマチの実行委員は、一番近いホテルに泊まる人達を案内した。

ホテルには、沢山のボランティアの人が待っていてくれた。

3時45分に札幌から来る人を出迎え、ホテルで道役員と十勝分会の実行委員で、翌日のリウマチ分科会の打ち合わせをした。

5時頃から歓迎レセプションにでる人たちが、ほかのホテルからもぞくぞくと集まって来た。500名近くの人たちが、丸テーブルを囲んだ。

アトラクションは、カムイトウウポポ保存会のアイヌ古式舞踊で、十勝でも滅多にみられない踊りに静かにみいった。次々出てくるご馳走や交流で座は盛り上がった。

翌日のリウマチ分科会は、プラザの机と椅子が固定されて飲食出来ない視聴覚室だった。「作品展は総会しかないんだけど、自分達が片付けるのならやってもいい」ということだったので、分会の人たちが作った押し花を、後ろのテーブルに並べた。旭川分会の折り紙のかざりも。

受け付けをやっていたら、分会の人たちや函館・旭川・稚内・釧路など全道各地から、懐かしい人たちがみえた。

医療講演は、勤医協帯広病院の深町知博先生だった。「講演の準備に6ヶ月はかかる」ということだった。テーマ、「リウマチと仲良くつきあうために」の講演が始まった。

受け付けを3人でしたので人数を照合していたら、ボランティアが参加人数を聞きに来て、「リウマチが一番多い」と言った。目標が100名だった

ので、ほっとした。暑い廊下から、冷房のきいた中に入ったら、先生が、手足の運動の実演をされていて、会場の雰囲気や和んできたところだった。先生が、腰痛を13キロのダイエットで克服したことや、笑いは免疫力の増加になると本の紹介をされ、前向きに生きる大切さを話された。講演が終わったら「楽しかったね」「講演のレジメほしかったね」と言っている人がいた。

分科会も終わったので、急いで押し花の作品を片付け手提げ袋に入れた。皆が帰るので、受け付けのところにいたら、稚内に帰る人が「車の中でお弁当を食べようと思ったが、カレーライスなので」と、お弁当券を5枚置いていった。

昼食は、リウマチの参加者だけ、レストランのカレーライスになった。

全体会の文化ホールへ向かう途中、作品の重さが肩にこたえたが「『押し花売らないんですか』と言った人もいた」と聞いて、苦勞して作品展をやった良かったなと思った。

大ホールは、各分科会から集まった人達の熱気でムンムンしていた。

間もなく、シニアリードアンサンブルの演奏する音楽が、静かに流れた。

全体会が終わって、リウマチ分会の人達と「話を聞くだけだと疲れるね。」「演奏に合わせて『ふるさと』や『里の秋』を歌えると、もりあがったのだね」と話しあった。

後日「ボランティアは、文化ホールでお弁当を食べるはずだったのが、行ったら食べる部屋もなかった。」「役員に『お弁当は当たりません』と言われ、帰った人もいた。」「全体会が終わったら、ごみがいっぱいだったので、私達椅子を一つずつあげて片付けたんだ」「『やる気のある人達が、集まっているんだから、もう少し責任を負わせてもらってもよかった』とボランティアの人達が、言っていた」という話を聞いた。これが、次回にいきるといいと思った。

ともあれ、花のようにいっぱいだった黄色いTシャツのボランティア・赤いTシャツの実行委員の熱い夏は終わった。

道や支部の役員・医療班・大会を支えて下さった多くの方々に、感謝しつつ・・・

第 33 回 全道集會に参加して

ダウン症部会 丹羽 厚子

17年ぶりの地元帯広での全道集會は、8月5日のレセプションから始まり、翌日の分科会、全体集會と2日間にわたり本当に多くの参加者による盛大な集會となりました。私たち小鳩会の分科会も、23家族60名と会場に入りきれないほどでしたし、全道集會への関心の高さ、真摯な姿勢に感銘しました。

北海道小鳩会会長の三好さんを囲んでの交流会は、平生、顔を合わせる機会の少ない他の分会の皆さんとの情報交換など、とても有意義な楽しいひとときとなり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。午後からの全体集會では、「障害者自立支援法」について、興味深く拝聴させていただきました。未知の部分も多々あり、不安が解消されたわけではありませんが、勉強になりました。

この度の全道集會開催にあたり、実行委員として（小鳩会より4名）不慣れながらもお手伝いできたことは、とても貴重な意義のある体験でした。そして、「誰もが安心して暮らせる医療と福祉社会」に向けて、今考え、行動していかなければならないことを痛感しています。

全体を通して＜時間が足りなかったこと＞が残念ではありましたが、終了後の充実感と言うまでもありません。

北海道潰瘍性大腸炎・クローン病友の会 松平 貴弘

8月6日の全体集會で患者・家族の訴えをさせていただき、ありがとうございました。ステージ上でたくさんの観客を目にした時はこれを引き受けた事ととても後悔しましたが、訴えが終わりステージから退場する時にたくさんの拍手が聞こえ、そして「感動した」や「とてもよかった」などの声もたくさん聞けて、今では「引き受けて本当によかった」と心から思っています。

「社会を変えたければ人の心を動かせ」という言葉があります。十勝大会に参加し、皆さんの心はどう動いたのでしょうか。僕はより一層優しい社会をつくる思いが強くなりました。きっと皆さんの心にも今まで以上の優しさが芽生えていることだと思います。今はとても小さな芽かもしれませんが、これからすくすくと育ち、やがてはつぼみをつけ、今の社会を優しい社会に変えてくれる花を開いてくれることでしょう。「誰もが安心して暮らせる医療と福祉社会を 十勝から」のスローガンのように十勝からそんな優しい社会をつくれることを心から願っています。

第33回難病患者・障害者と家族の全道集会（十勝大会）に参加して
十勝保健福祉事務所保健福祉部（帯広保健所）
健康推進課長 山口 繁則

8月6日、「難病患者・障害者と家族の全道集会」が、帯広市民文化ホールで開催されました。

ここの十勝で開催されたのは、平成元年以来、実に17年ぶりということでしたが、患者や障がい者の方々とその御家族、そしてボランティアの方々など、約1,000名が一堂に会する盛大な集会となりました。

参加された方々には、十勝や全道各地からはもとより遠くは道外から出席された方もいらっしゃいました。帯広保健所としても、医療班の一員として支援させていただきましたが、この集会には北海道知事（代理）や帯広市長（代理）のほか、国会議員や道議会議員、帯広市議会議員の方々なども駆けつけるなど難病問題に関するその関心の高さがうかがわれました。

集会の中では、厚生労働省の伊原企画官による「障害者自立支援法のポイントと今後の課題」と題した講演のほか、道議会議員や患者代表の方々によるシンポジウムにおいて「どう考える？障害者の自立支援」がテーマとして取り上げられ、それぞれの方から障がい者の自立に向けた現状と課題が示されるとともに、今後の方向性について論議がなされました。

これらの講演やシンポジウムを通して、私は行政に携わる者として考えるべきことが2つあることを痛感しました。一つ目は難病そのものに対する道民の理解がまだまだ低いこと。そして、二つ目は難病患者や障がい者の方々への支援は、それが物質的なものあるいは精神的なものであったとしても、望んでいる方々のもとに確実に届くことによって、はじめてその価値が現れるということです。このことは、誰のための行政かということを強く示唆しているものであり、その達成に向けた取り組みの強化が求められているのだと思います。

さて、この集会が開催された当日は気温が30℃を軽く超え、まさに真夏の太陽が厳しく照りつける中、ボランティアの方々をはじめスタッフは午前中に開催された各分科会も含め複数の会場を何度も往復するなど、汗だくで参加者の介助や集会の運営にあたっていました。このことは、難病問題に正面から立ち向かうその気迫と情熱の現れとして、集会に参加したすべての方々の胸を強く打ったことと思います。今、あらためて皆様方に深く感謝を申し上げます。そして、今後とも患者や御家族、そして関係者の方々が強い絆で結ばれることと、難病連十勝支部のより一層の発展を願っております。

はじめてのボランティアを終えて

和田 佳子

今年で33回目となる難病患者・障害者と家族の全道集会。十勝大会であった事から、私は初めてボランティアとして大会に参加させてもらいました。

当日は朝からよく晴れ、気温の高い一日でした。集合場所の広場には、黄色のTシャツを着た人達が大勢集まって来ました。私の担当は託児でした。仕事柄毎日子供達と一緒に過ごしているものの、いつもとは違う緊張がありました。それは、子供達が障害を持っている事だけでなく、17名のボランティアさんとも初めて会う事の不安でした。とにかく出来る事をやってみようと思っていました。事前にダウン症候群児父母の会の役員の方達とお話しをする時間がもてた事は、とても有り難かったです。その時の話し合いで、用紙に連絡事項を記入してもらおう事などの細かい打ち合わせが出来ました。

そして分科会が始まり子供達と過ごした時間は……。まだおしゃべりはしてくれない2才の男の子は、手遊びをする



と一緒にまねをして小さな手を動かしてくれました。大きな子供達とはお喋りをしたり、ゲームをして体を動かしたりと時間はあっという間に過ぎていきました。何かをしなければいけないと力が入りすぎていた自分が、子供達と過ごす時間の中で楽しさを感じていたのです。

私はボランティアを初めて経験しました。誰でも初めての事は不安に思うでしょうが、だから何もしないのではなく、やってみる事が大切なのだと思いました。

最後に貴重な経験をさせていただいた事に感謝致します。ありがとうございました。

合同レクレーションに参加して

リウマチ部会 加藤 登美子

当日は予報どおり、あやしい空だった。帰るまでなんとか降らなければと祈りつつ参加。久しぶりにバス遠足気分でウキウキしながら集合場所の市役所西側へ行きました。

難連から20人程、私はリウマチ部会で佐藤美恵子さんと一緒に参加。9時過ぎ、バスは御影の竹中農園の畑へ出発。ここ竹中さんの畑の一角をJRの親睦会の方々が、春から種まき・草取り・その他諸々、何回もの作業をやって今日があるのだとバスの中で説明をされました。

そんな訳でJRの御家族が大勢いて、芋掘りもあつという間に掘り上げられました。「キタアカリ」と「レッドムーン」そして、とうきびも袋いっぱい詰め、おみやげにいただきました。昼は、バーベキュー・いもだんご・生ビール・豚汁をたくさん食べ、秋を満喫。野外で体を動かし、苦労したお芋・とうきびは違うな～。

美味しい嬉しい芋掘りデーでした。皆んなの助けを借り、楽しい一日を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

国会請願行動に行って来ました

二分脊椎症家族 加藤 富江

2006年5月28・29日、JPAの総会と国会請願行動に道東8支部の代表として、十勝が当番でしたので成田さんと加藤が行って来ました。28日の東京についてのすぐからのJPAの総会、29日の国会請願行動とハードなスケジュール、とても患者さん本人が行動しているとは思えないくらい過密でした。署名の一筆一筆がとても重要で重みがある事を感じさせられる行動でした。会員のみなさまも是非チャンスがありましたら、一度は参加されると良いと思いました。

(財)北海道難病連 2006年度 支部事業計画

(期間 自:2006年4月1日 至:2007年3月31日)

支部名 十勝支部

| 予定月日 | 行事計画・行事名 | 会場 | 予定参加数 | 備考 |
|----------|----------------|------------|-------|---------|
| 06.05.13 | 総会(理事会・評議員会) | ユニオンホテル | 2名 | 評議員 |
| 05.14 | 総会(全道支部協議会) | 北海道難病連 | 1名 | 支部長 |
| 05.21 | 十勝支部拡大役員会 | とがちプラザ 306 | 35名 | |
| 05.21 | 講演会…防災 | とがちプラザ 306 | 30名 | |
| 05.28 | パーキンソン病医療講演会 | とがちプラザ | | 言語療法 |
| 05.28 | JPA総会 | 友愛会館 9F | 2名 | 道東支部・十勝 |
| 05.29 | 国会請願 | 参議院会館 | 2名 | 道東支部・十勝 |
| 06.16 | 第1回支部役員会 | 十勝支部事務所 | 8名 | 本部・松田 |
| 06.17 | 全道集会実行委員会 | とがちプラザ | | |
| 06.29 | 第2回支部役員会 | 十勝支部事務所 | 8名 | |
| 07.14 | 第3回支部役員会 | 十勝支部事務所 | 14名 | |
| 07.22 | 全道集会実行委員会 | 十勝支庁保健所 | | VO講習 |
| 08.05 | 第33回全道集会レセプション | ホテルノースランド | 378名 | |
| 08.06 | 第33回全道集会・分科会 | 帯広市民文化ホール | 803名 | |
| 08.09 | 第4回支部役員会 | 十勝支部事務所 | 12名 | |
| 09.01 | 第33回全道集会反省会 | ホテルノースランド | 28名 | |
| 09.05 | 帯広看護学生・実習 | 十勝支部 | 5名 | |
| 09.07 | 第5回支部役員会 | 十勝支部 | 7名 | |
| 09.10 | 合同レクレーション収穫祭 | 竹中牧場 | 20名 | |
| 09.13 | 帯広看護学生・実習 | 十勝支部 | 5名 | |
| 09.24 | 腎友会キャンペーン | 十勝支部 | 2名 | |
| 10.01 | JPA国会請願署名 | 藤丸広場 | 5名 | |
| 10.06 | 赤い羽根共同募金 | 十勝支部 | | |
| 10.08 | IBD十勝支部総会 | グリーンプラザ 2F | | |
| 11.上旬 | 正月飾り | 十勝支部事務所 | | |
| 12.上旬 | 第6回役員会 十勝支部 | 十勝支部事務所 | | |
| 07.02.上旬 | 十勝支部、デジタル工房新年会 | | | 新年会 |
| 下旬 | 第7回役員会 十勝支部 | 十勝支部事務所 | | |
| 03 | 会報「なんれんとがち」発行 | | | |

2006年度

地域部会役員組織

北海道難病連十勝支部

| | | | |
|-----------------|-------|--------|---------|
| あすなろ会 | 成田愛子 | 難病連担当者 | 成田愛子 |
| 事務局 長 | 柳弘子 | | |
| ダウン症部会 | 広瀬真澄 | 難病連担当者 | 丹羽厚子 |
| 事務局 長 | 広瀬真澄 | | |
| パーキンソン病友の会 | 板谷弘 | 難病連担当者 | 山根隆 |
| 事務局 長 | 山根静子 | | 荻原晃 |
| リウマチ | 田中弘子 | 難病連担当者 | 田中弘子 |
| 事務局 長 | 中村鶴子 | | 中村鶴子 |
| 後従靭帯骨化症 | 荒重勝 | 難病連担当者 | 秋元英子 |
| 事務局 長 | 荒重勝 | | |
| 十勝地方腎友会 | 大澤則夫 | 難病連担当者 | 岡崎由紀夫 |
| 事務局 長 | 小笠原和枝 | | |
| 膠原病友の会帯広地区 | 大野ひとみ | 難病連担当者 | 早川正弘 |
| 事務局 長 | 北風喜美江 | | |
| 日本二分脊椎症協会帯広地区 | 加藤十三雄 | 難病連担当者 | 加藤富江 |
| 事務局 長 | | | |
| プラタナスの会 | 水谷真理子 | 難病連担当者 | 水谷真理子 |
| 事務局 長 | 水谷真理子 | | |
| IBD友の会帯広支部 | 広瀬智 | 難病連担当者 | 広瀬智 |
| 事務局 長 | 広瀬智 | | |
| 脊髄小脳変性症友の会とち連絡会 | 村中仁志 | 難病連担当者 | 川崎悦子 |
| 事務局 長 | 川崎悦子 | | |
| 十勝ベージェット友の会 | | 難病連担当者 | 現在休会中です |
| 事務局 長 | 及川次枝 | | |
| 十勝肝炎友の会 | | 難病連担当者 | 現在休会中です |
| 事務局 長 | 内藤雅勝 | | |

「第 33 回難病患者・障害者と家族の全道集会」

2006 年 8 月 5 日～6 日

協賛広告・ご寄付、ご協力ありがとうございました。

| | | |
|------|--------|---------------|
| | 総合計 | ¥ 4,025,500 円 |
| 協賛広告 | 十勝支部扱い | ¥ 1,444,000 円 |
| 寄付 | 十勝支部扱い | ¥ 460,000 円 |

※十勝支部への寄付

| | | |
|---------|---------|------------|
| ○加藤定雄様 | ○徳永すみ子様 | ○井雲ハルミ様 |
| ○江口美生男様 | ○荒尾末子様 | ○富原洋子様 |
| ○樋口正子様 | ○西原竹一様 | ○藤田浩子様 |
| ○佐藤様 | | ○他 匿名 2 名様 |

| | |
|-------------------|-------------|
| ○NPO 法人障害者・児尚之基金様 | ○さわい内科循環器科様 |
| ○JR 旅行センター帯広支店様 | ○森の泉歯科医院様 |
| ○株式会社ナカジマ薬局様 | ○富士メガネ様 |
| ○高木皮膚科診療所様 | ○和田農園様 |
| ○株式会社ホリウチ様 | ○大樹町様 |

(順不同)

募金箱

| | |
|----------------|--------------|
| ○ワインプラザカワイ(酒店) | ○ワイン城池田レストラン |
| ○ダイイチ西 8 条店 | ○なかむら洋品店 |
| ○モミの木 | ○珈琲屋カゼ |
| ○十勝支部 | |

デジタルよりご挨拶

暑かった夏もようやく終わり涼しい秋口の気配を感じさせる今日この頃ですが、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

この度、縁がありまして平成18年4月1日付けで、ふれあいデジタル工房の所長になりました加藤富江です。病気は二分脊椎症の家族です。北海道難病連十勝支部の役員は長く携わっていますが、作業所の事は何もわからない一年生ですが、十勝支部の会員、役員、デジタル工房の職員のみなさまのお力を借りてやっていきたいと思っております。

今年10月からは、制度改革、障害者自立支援法がはじまります。作業所の中味もかなり変わってきます。色々と勉強をして良い方向性に持っていかねばと思っております。デジタル工房では、パソコンを習いたい方受講生募集並びに名刺、封筒、その他の印刷物これからは年賀状の印刷などの仕事もお待ちしております。みなさまのご協力をお願い致します。

平成18年10月吉日 (財)北海道難病連十勝支部ふれあいデジタル工房
所 長 加 藤 富 江

ふれあいデジタル工房からのお知らせ

只今、パソコン教室の受講生募集中です。曜日は火曜日～土曜日までの午前10時～午後5時まで開所しています。

1教時目 10時10分～11時50分

2教時目 13時10分～14時50分

3教時目 15時10分～16時50分

一般の方は1時間40分で1,000円です。予約制となっています。

まずは、お気軽にお問い合わせ下さい。

電話 (0155) 23-6699まで

また、簡易印刷・はがき・名刺・チラシなどの印刷も承っておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。なお、これからは喪中のはがき、年賀はがきの印刷の予約を承ります。よろしくお願い致します。

新任の挨拶

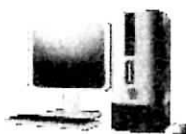
この度、9月からふれあいデジタル工房の講師として勤めることになりました。

講師といっても、Word と Excel を多少使える程度で、まだまだ勉強しなければならない事が、山ほどあります。実際、勉強しながら学んでいるところです。

今後は、自分のためにも努力をし、資格にもチャレンジしていきたいと思います。

まだまだ未熟者ではありますが、よろしく願いいたします。

田口 真矢



この度 デジタル工房で講師を勤めさせていただくことになりました、比企です。

まだ 生徒さんとお会いするようになって日は浅いのですが、みなさんの明るさとバイタリティに敬服する毎日です。仲間の一員になれたことを感謝しています。

パソコンは仕事に使うととても便利なものですが、デジカメで写したものを使って自分だけのはがきを作ったり、とても楽しいことがたくさん出来るものでもあります。そんなパソコンを使って、皆さんと一緒にいろいろ楽しめたらいいなと思っています。

どうぞよろしく願いいたします。

比企 友子



7つのスローガン

☆国と道は、原因の究明と治療法の確立を急いでください!!

☆全ての難病の治療を公費負担にして下さい!!

☆介護手当ての支給と通院交通費、付添費の補助を!!

☆患者、障害児者の教育の選択権を親と子に!!

☆医療過誤、薬害を無くし被害者救済を!!

☆北海道の総合的な難病対策の確立を一日も早く!!

☆広く道民と手を結び明るい福祉社会を実現させよう!!



財団法人——北海道

難病連

NPO法人 尚之基金「ビリーブ」

障害者(児)・老人及び更正施設等の福祉を増進しようとする団体個人への活動支援、居宅支援・居宅介護支援サービス等の事業を行う。

1. 指定居宅介護支援事業所
2. 指定訪問介護事業所
3. 指定支援費居宅介護事業所

みみずくの会

※支援費・介護保険から除外されるサービス。ガイドヘルプ、観光、リハビリ、イベント、親類・知人・友人宅その他・病院等の付添、話相手、除雪、排雪、営業の手伝、窓拭き等除外されるサービスに付きましては『みみずくの会』にご相談下さい。

【尚之基金「ビリーブ」事務局】帯広市西16条南6丁目11番9号

電話:0155-41-0121 FAX:0155-41-0124 休日等転送電話:090-1647-0547

HSKなんれんとかち46

第三種郵便物許可 昭和48年1月13日 2006年10月10日 通巻415号

編集人 (財)北海道難病連十勝支部 事務局長 成田 愛子

帯広市西5条南13丁目19-2 Tel:0155-23-6602 Fax:0155-23-7071

発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 細川 久美子